

# JAEF REPORT

平成26年1月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

## 【目次】

- ◆ 新年のご挨拶
- ◆ 18県で教材贈呈式を開催
- ◆ 22道県(31件)の研修会に講師を派遣

- ◆ 第92回JAEF研修会を開催
- ◆ 高校生のクルマ意識調査を実施
- ◆ 自動車技術教育イベントを支援

## 新年のご挨拶

財団運営

新年おめでとうございます。

旧年中は当財団に対し格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

公益財団法人へ移行し2年目の昨年は、「社会と自動車のより良い関係を形成するため、高等学校における自動車及び交通に関する教育の支援事業を行う」という財団の目的に沿って、自動車教育をさらに前進させることができました。これらは、皆様のご支援・ご指導の賜物でございます。

ここに、昨年の主な事業展開について簡単に紹介させていただきます。1つ目の技術教育支援事業では、25年度公募対象校(秋田県をはじめとする18県270校の工業高校など)へ、実習用エンジンなど27種類の提供教材を公募案内したところ、同対象地域の前回は実績(平成22年度:68校)を大きく上回る86校からの応募がございました。これは、自動車技術教育に対する支援要望が、高校の教育現場にはまだまだ沢山あることの証左ではないかと思われます。

2つ目の研修事業では、交通・環境・交通安全・自動車技術をテーマとして、先生方を対象としたJAEF研修会(財団主催の研修会)を4回開催し、200名を超える多くの先生方にご参加いただきました。開催1回当たりの参加者数は過去最多となり、研修内容についても参加された先生方から高い評価をいただくことができました。また研修会への講師派遣については、関係諸団体のご協力により、派遣件数は過去最多となる見通しとなりました。平成25年度合計では、約200件の研修会への講師派遣により、先生と生徒を合わせた受講者は約7万5千名となる見込みです。

3つ目の調査研究事業では、国内外の交通調査を広く実施し調査内容をまとめると共に、それを基にした広報誌向けの特集記事の作成・掲載や、交通・環境・交通安全に関する副教材の提供に取り組みました。合わせて、今後の自動車教育の在り方の参考にすべく、クルマに対する高校生の意識調査を開始いたしました。

そして最後に普及啓発事業では、全国5,900校の高等学校に広報誌の提供を重ねると共に、ホームページやニュースリリースなどにより、高校やマスコミへのタイムリーな情報発信を行い、自動車教育の輪をさらに広げることができました。

一方、自動車業界を取り巻いた環境を振り返りますと、円高に歯止めがかかり、少しは明かりがさしたものの、まだまだ予断のならぬ経営の舵取りが求められた1年ではなかったでしょうか。円高の鎮静化だけでなく、富士山の世界文化遺産登録や2020年の東京オリンピック開催決定も国民の気分を好転させました。一方で、消費税率アップの影響やTPP交渉の行方など、日本経済の先行きは見通しがつきにくい状況が続いております。

しかし、そのような不透明で難しい環境下であったにもかかわらず、財団が粛々と事業を展開できましたのも、関係諸団体・企業の皆様の継続的なご支援・ご協力の賜物に他なりません。財団は、今年も自動車教育を通して次世代を担う高校生の育成に取り組む所存でございますので、諸環境厳しき折ではございますが、引き続き皆様のご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

## 【財団事業展開状況】

事業	主な取り組み	平成24年度実績	平成25年度見込み
技術教育支援	エンジンなどの各種教材提供	15府県 92校	18県 86校
	贈呈式・教育懇談会の開催	15府県 273名	18県 268名
研修	JAEF研修会の開催	4回 140名	4回 216名
	講師派遣の実施	174校 76,002名	200校 約75,000名
調査研究	国内外交通調査に基づく副教材作成・提供	946名・校	900名・校
普及啓発	広報誌の作成・提供	5,900校	5,900校

## INFORMATION

1~3月予定

- 各部会、委員会を開催 2月
- 第6回理事会を開催 3月13日
- 9都県(17件)の研修会に講師を派遣 1月~3月

## 18県で教材贈呈式を開催

・・・11月6日～12月13日

技術教育

財団は、平成25年度の技術教育支援事業の一環として、自動車技術教育用教材を18県86校に提供したが、その一環として11月に13県、12月に5県、計18県において各県自動車教育推進協議会\*1（以下、推進協議会）と共催で「自動車技術教育用教材贈呈式」（以下、贈呈式）を実施した。

これら18県で行われた贈呈式には、関係者が合計で268名（学校関係者157名、および推進協議会関係者111名）出席し、大変盛り上がりのあるものとなった。加えて、これらの贈呈式は多くの地域で地元TV局や新聞社などのマスコミ取材を受け、その報道により、各地域における推進協議会活動の理解促進が図られた。

本年は、提供校数が前回(平成22年度)より18校増えたが、第一希望の教材提供校数は86校中83校、第二希望の教材提供校数は3校と全高等学校に提供が出来、学校からの希望に応えることが出来た。

贈呈式は、16提供県において合同開催方式\*2で、1県は学校訪問方式、1県は校長会形式で開催した。また全県において、贈呈式後に教育懇談会を実施し、贈呈式に参加いただいた学校関係者と、財団および推進協議会のメンバーによる、地域に密着した自動車教育を推進していくための情報交換の場として意見交換を行った。

学校関係者からは、予算が厳しい折、財団の教材提供に感謝の言葉が多くあった。特に、早速利用した高等学校では「動く掛図など目に見える教材・エンジンの分解組立など実物に触れる教材が興味を引き、生徒が目を輝かせて授業を受けた」との報告が多くあった。

要望では「最近ではハイブリッド・電気自動車が主流となってきており、機械工学の知識だけではなく、電気関係の知識も必要になってきている」とのご意見で、電気・電装に関する教材の検討を進めていきたい。

- \*1：各都道府県の自動車販売店協会、自動車整備振興会、軽自動車協会、日本自動車連盟支部、日本損害保険協会支部の5団体（一部の県では中古車販売店協会が参加）を中心に構成。  
\*2：教育委員会、代表校長、提供校校長、担当教諭などの当該県の学校関係者と、推進協議会メンバーがホテルなどで一堂に会して目録贈呈が行われる方式



▲山形県贈呈式（11/19）



▲群馬県贈呈式（11/6）



▲佐賀県贈呈式（11/29）

### 【開催実績表】

	県名	提供校数	参加人数	開催日	開催場所
1	群馬	4	16	11/6	群馬自販会館
2	秋田	7	15	11/8	秋田県自動車会議所
3	長野	6	14	11/8	ホテルメトロポリタン長野
4	熊本	4	18	11/11	熊本ホテルキャッスル
5	福岡	11	29	11/12	ハイアット・リージェンシー福岡
6	新潟	1	6	11/15	塩沢商工高等学校
7	山形	3	13	11/19	山形グランドホテル
8	香川	5	16	11/21	リーガホテルゼスト高松
9	長崎	4	14	11/25	ホテルセントヒル長崎
10	徳島	4	12	11/25	JAF徳島支部
11	高知	5	14	11/26	高知パシフィックホテル
12	鹿児島	6	13	11/28	ホテル・レクストン鹿児島
13	佐賀	4	14	11/29	グランデはがくれ
14	山梨	2	10	12/3	山梨自動車販売店会館
15	宮崎	4	16	12/4	宮崎観光ホテル
16	沖縄	6	14	12/5	美来工科高等学校
17	大分	6	21	12/12	大分オアシスタワーホテル
18	愛媛	4	13	12/13	愛媛自動車会館

## 22道県(31件)の研修会に講師を派遣

・・・10月～12月

研修

財団は、各高等学校からの要請を受け、別表の22道県(31件)の研修会に関係団体・企業から専門の講師を派遣した。受講者は先生・生徒合計で8,634名に上った。

内容は、一般研修会の「交通安全」に関する講師派遣の要請が23件(「危険予知」13件、「クルマ・自転車・人がつくる道路交通と安全」6件、「自転車と交通安全」1件、「交通事故とその責任」3件)、技術研修会の「整備技術」に関する講師派遣の要請が1件(ガソリンエンジンの分解・組立)、「最新技術」に関する要請が8件(「トヨタ・ハイブリッド車」3件、「ホンダ・ハイブリッド車」1件、「日産・電気自動車」2件、「三菱・プラグインハイブリッド車」1件)であった。

「交通安全」に関する講師は、(一社)日本自動車連盟支部および(一社)日本損害保険協会支部にご協力いただいた。

また、「技術研修会」の講師は、(株)日産サテオ宮城、ネットトヨタ中国(株)、名古屋トヨペット(株)、三菱自動車工業(株)、長崎日産自動車(株)、(株)ホンダカーズ静岡西、島根県自動車整備振興会にご協力いただいた。そして、いずれの研修会の参加者からも大変高い評価をいただくことができた。

ご協力をいただいた関係団体・企業ならびに各県の推進協議会の皆様には、紙面をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。



▲交通安全に関する講師派遣の様子



▲整備技術に関する講師派遣の様子

## 第92回JAEF研修会を開催

・・・11月22日

研修

財団は、第43回東京モーターショーの開催に合わせ、「自動車の安全技術」をテーマとした第92回JAEF研修会を実施した。今年度第4回目となる同研修会には、全国の高等学校から97名の先生方とオブザーバーを合わせて102名が参加した。

講演は、「人間主体のASVとITS『ぶつからないクルマ』に見る先進安全技術」と題し、交通コメンテーター(有)ナック代表取締役 西村直人氏に講演いただいた。内容は「衝突被害軽減ブレーキ」を例に、動画を駆使して最新の安全技術をわかりやすく紹介した講演で

あった。西村氏は、クルマは人が操作するものであり、「ぶつからないクルマ」という認識は誤りで「教えてくれるクルマ」が正しいと締めくくった。参加した先生方からは、「安全に向けた新技術の内容を聞いて大変よかった」と好評であった。また、午後からは「第43回東京モーターショー」を見学した。当日は一般公開日前日のため、比較的ゆったりと各メーカーの展示車を見学することができた。なお、JAEF研修会の参加者は、本年度4回の研修会参加者(216名)を加えると、平成3年スタート以来、延べ3,463名となった。



▲第92回JAEF研修会(講演)の様子



▲第92回JAEF研修会での東京モーターショー見学

## 高校生のクルマ意識調査を実施

・・・ 10月～12月

調査研究

近年、「若者のクルマ離れ」が喧伝され、財団事業の一つである自動車技術教育用教材贈呈式においても、「工業高校の生徒でもクルマに対する関心は以前に比べ低下している」との指摘を受けている。こうした中、高校生の今の関心事項や価値観、クルマに対する意識を把握すべく、WEB調査とグループインタビュー調査を実施した。こうした調査は財団として初めての取り組みである。

WEB調査は、10月5日（土）～10月15日（火）にかけ、首都圏、京阪神圏、九州圏の3地域にて各地域100名、合計300名に対して行った。グループインタビュー調査は東京（12/8）、大阪（12/23）、福岡（2/2）にて、各都市12名、合計36名にそれぞれモーターショーを見てきてもらい、クルマに対する印象・関心がどう変わったかも調査する。

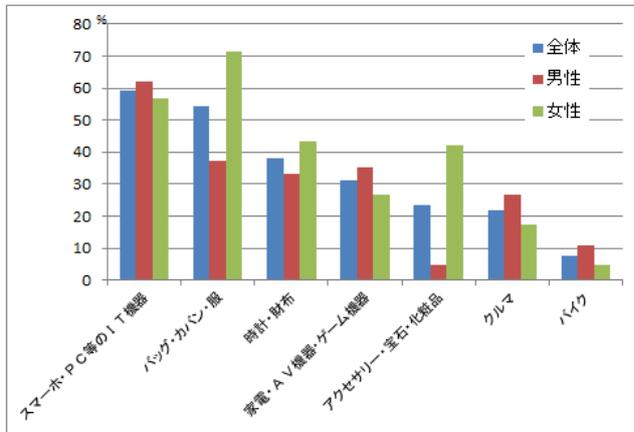
社会人になった時に自分らしさを表現する持ち物を聞いたところ（右図）、スマートフォンなどのIT機器（59%）、バッグ・衣服（54%）、時計・財布類（38%）が多く、クルマと回答したのは22%にとどまっている。一方で、86%がクルマの所有意向を示している。これは「クルマが好き」（23%）というより「クルマがある」と「便利」（80%）という理由が大きく、若者にとってクルマがコモディティ化している様子がみえてくる。

グループインタビューでも、「クルマは大人のもの」との意識が強く、「結婚して子供ができればクルマを買いたい」「クルマでは家族・友人と気兼ねなく話せる」と回答しており、クルマそのものの魅力、運転の楽しさを指摘する声はほとんど聞かれなかった。

また、グループインタビュー参加者には事前にモーターショーに行ってもらった。その感想を尋ねると、「さまざまなメーカーのクルマが一堂に展示してあってすごかった」「先端技術のクルマがあって将来が楽しみ」との反応がある一方で、「単にクルマが展示してあるだけで外しか見られない」「幕張の時は長い距離を試乗体験できたのに、今はあまり体験できないのが残念」との意見もあった。今後のモーターショーのあり方にも、若者がもっとクルマに触れ合え、より関心を引き起こすようなクルマの展示方法やクルマの運転の楽しさを訴求する工夫が必要と思われる。

（注）東京モーターショーでは展示車両にロックがかかっており運転席に乗ることができなかったが、大阪モーターショーでは、自由に乗ることができ、子供たちも楽しんでいった。

【将来の自分らしさを表現する持ち物】



## 自動車技術教育イベントを支援

・・・ 10月～11月

財団運営

財団は、自動車技術教育の推進に関わる高等学校の取り組みを支援しており、その一環として下表の6件の教育イベントに協賛金などを支援した。

「高校生ものづくりコンテスト全国大会」は11月に四国で各ブロック代表校10校が「自動車整備部門」の技術を競い、愛知県立小牧工業高等学校が全国優勝を果たした。

また、「エコデンレース」は、11月に大阪府万博記念公園で行われ、総合の部では福岡市立博多工業高等学校、ワイパーモーターの部では沖縄県立那覇高等学校、充電池部門では、宮崎県立宮崎工業高等学校がそれぞれ1位となった。



▲エコデンレースの様子

イベント名	主催	開催日	会場	概要	参加者	支援内容
第15回沖縄高校生エコデンレース大会	沖縄県工業教育研究会	10/22（火）	沖縄県	電気自動車で行く距離を競う	県内高校8校計25台	賞状・協賛金
2013長野県高校生交通安全CMコンテスト	長野県交通安全ゼロチャレンジ実行委員会	10/26（土）	長野県	交通安全をテーマとしたCMで、テレビ部門、ラジオ部門の2部門	県内高校生	協賛金
第21回静岡県高校生エコラン大会	静岡県工業高等学校校長会	10/27（日） 11/30（土）	静岡県	電気自動車・ガソリン自動車とどれだけ走れるかを競う	県内高校生	協賛金
第17回スターリングテクノロジー	スターリングテクノロジー技術会	11/9（土）	埼玉県	スターリングサイクル機関の性能とアイデアを競う	小中学生・高校生 大学生及び一般	協賛名義
第13回高校生ものづくりコンテスト全国大会	全国工業高等学校長協会	11/16（土） 11/17（日）	四国各県	自動車整備技術を競う	代表高校10校	後援名義
2013エコデンレース	全国自動車教育研究会	11/23（土）	大阪府	高校生の作製した電気自動車の性能を競う	全国の高等学校	後援名義 広告掲載